

日本認知症本人ワーキンググループ 10周年記念イベント



わたしたち一人ひとりの 希望とアクション

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ

JDWG Japan Dementia Working Group



目次

ご挨拶.....	1
1. JDWG 10年の歩み.....	2
2. 本人座談会 登壇者紹介.....	8
3. 会員からの取組紹介.....	9
4. 活動とともに歩んでくれた方からのメッセージ.....	11
5. JDWG 10年の歩み(年表).....	14



本日のプログラム(予定)

時間	内容
13:00	開会あいさつ JDWG 代表理事 藤田 和子
13:05	JDWG 10年の歩み ～一人ひとりが発信！希望が広がる！「ともに生きる」日々へ～
13:15	本人座談会
14:05	リレートーク
14:30～14:45	休憩
14:45	JDWG ロゴ発表
14:50	JDWG 本人アピール 2024
15:00	閉会
閉会后	交流(30分～1時間程度)を予定しています。

ご挨拶

- 日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG)が、2014年10月に任意団体として立ち上がってから、10年たちました。
 - JDWGは、本人が主体となりパートナーの皆さんとともに認知症になってからも希望と尊厳を持って暮らすことのできる社会を創り出す事を目的とした会です。
 - 会の目的に賛同してくださる様々な皆さんとともに、これまで歩んでこられたことに感謝します。
 - 私達本人が自分らしく前向きに生きようとする姿は、これまで持たれていた、認知症になったら人生おしまいという認知症観を払拭してきたのではないかと思います。
 - そして誰もが、認知症になってからも、希望をもって、自分らしく暮らし続けることのできる社会を創り出していく推進力になっていると感じています。
 - これからも諦めることなく、認知症になってからもそれぞれがより良く暮らせる地域社会となるよう、皆さんとともに歩みを続けていきたいです。
- どうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ

代表理事 藤田 和子



1. JDWG 10年の歩み

JDWG 10年の歩み

一人ひとりが発信！希望が広がる！
「ともに生きる」日々へ

2007年頃～



2004年ADI京都での越智俊二さんの登壇以降、各地にて

本人みずから、発信活動始める

2014年10月 日本認知症ワーキンググループ設立



一人の声は小さくても、声を寄せ合い、社会をよりよく



2014年10月 厚生労働大臣に提案

思いと希望を、私たちの言葉で

2016年頃～



「本人ミーティング開催ガイドブック」の制作に協力

「本人ミーティング」を各地で、そして全国へ

2017年～



「本人ガイド」の制作に協力、普及活動を担う
2023年度末現在、延べ配布数
無償(本人) 1,850部
有償(行政等を通じて) 32,613部

元気になる本人ガイドが欲しい!つくろう!



本屋さんとともに 図書館、自治体とともに 案内文を、手作りで

本人が書いた本 ブックフェアを全国で

2018年～

認知症とともに生きる希望宣言

- 1
自分自身がとられている立場の殻を破り、
前を向いて生きていきます。
- 2
自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、
社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。
- 3
私たち本人同士が、声合い、つながり、
生きる力をわかちあえ、元気に暮らしていきます。
- 4
自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、
身近なまわりで見つけ、一緒に歩んでいきます。
- 5
認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、
暮らしやすいわがまちを一緒についでいきます。

私たち本人からすべての人たちへ



- 希望宣言リーフレットを公益活動の一環として配布
- 2023年度末現在、延べ配布数:92,005部

全国から声を寄せ合い「認知症とともに生きる希望宣言」



希望のリレー

希望宣言をスタートに、希望を持って暮らす人を増やし、賛同・活動の輪を広げる活動



本人発「希望のリレー」を各地で展開

2019年～



日本認知症官民協議会 ～厚生労働省・経済産業省の部会等へ参画

政府の認知症施策の推進に、当事者組織として参画

2020年～



厚生労働省から5人の大使が任命される



2024年1月～ 大使が7名に

国の「希望大使」として、普及活動に参画



コロナ禍でも、オンラインで交流を！

各地の「希望大使」誕生を後押し

2019年～2023年



国会議員に、JDWG提案を4度に渡り提出

法律の最終案固まる(2023年5月)

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」成立に参画

2024年～



政府の「認知症施策推進基本計画」策定に本人委員3名が参画

2015年～



藤田さん 佐藤さん 平さん 丹野さん 渡邊さん 柿下さん 福田さん



春原さん 戸上さん 山中さん 長田さん 鈴木さん 前田さん

国の様々な委員会等に、多くの本人が参画



● 2015年
SDWG(スコットランド
認知症ワーキンググ
ループ)と意見交換



● 2017年
ADI京都
本人座談会を企画開催



● 2023年
希望のリレーフォーラム/認
知症介護研究・研修東京セ
ンター(主催)とともに共催

海外の本人とともに

日本認知症本人ワーキンググループ

10周年

Special thanks!

前を向いてひたすら歩き続けてきた道を
ともにしてきた全国の本人とパートナー、
そしてともに歩んで下さってきた多くのみなさまに

心から感謝!

これからも、よりよい未来へ、ともに



編集:谷口 泰之(JDWG研究班)

音楽:谷口 泰之 Made with SUNO (AI)

制作協力:

これまでともに歩んできた全国の本人とパートナー
ともに歩んでくださったすべてのみなさま

and

Thanks always 鈴木 英一



2. 本人座談会 登壇者紹介

藤田 和子
(ふじた かずこ)



- 鳥取県在住、63歳。看護師として働いていた45歳の時、若年性アルツハイマー病と診断される。
- 「認知症になってからも自分らしく暮らせる地域にしたい、そんな地域をつくりたい」と考え、地元で活動を続けてきた。これからもその活動の輪を広げていくために、全国各地で「認知症とともに生きる希望宣言」を伝え、その地域の本人たちが前向きに生き、仲間をつくり、社会に参加していくことの後押しをしている。
- 2020年から認知症本人大使「希望大使」(全国版)。

丹野 智文
(たんの ともふみ)



- 宮城県在住、50歳。自動車販売会社でセールスマンとして活躍していた39歳の時、若年性アルツハイマー型認知症と診断される。
- 2015年から、認知症の本人が自身の体験や経験をもとに、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を地元仙台の仲間と行っている。
- 国内だけではなく、国際アルツハイマー病協会(A D I)国際会議等にも積極的に参加、「できることを奪わないで欲しい」こと、「本人だからこそできることがある」ことを社会に発信している。
- 2020年から認知症本人大使「希望大使」(全国版)。

春原 治子
(すのはら はるこ)



- 長野県在住、80歳。60歳で教職を定年退職、73歳の時もの忘れを自覚、74歳でアルツハイマー型認知症と診断される。
- 教職を定年退職後、地元小学校の授業支援のボランティアをしていた。民生委員として9年間、一人暮らしの高齢者宅を訪問し支えた。仲間と、地域初の放課後児童広場や特養のボランティア・支え合いサロン「エプロンの会」を立ち上げる。地元のオレンジサロン「hinata bocco (ひなたぼっこ)」を拠点に、地域で認知症の理解を進める活動を行っている。
- 2020年から認知症本人大使「希望大使」(全国版)。

戸上 守
(とうえ まもる)



- 大分県在住、64歳。地方公務員の仕事をしていたが、56歳頃からのもの忘れの症状と体調不良があり、前頭側頭型認知症と診断される。
- 診断後は落ち込み、ひきこもったが、大分市で若年性認知症の人たちが力を活かしながら活躍する大分市のデイサービスにつながったことで「自分」を取り戻す。現在もデイサービスに通いながら、同社が立ち上げた事業所で運輸関係の仕事にも従事。「一人でも元気になる人が増えてほしい」と大分県の認知症のピアサポート事業の相談員として、県内の全市町村に出向いて仲間を勇気づけている。
- 2021年から、大分県希望大使。
- 2024年から認知症本人大使「希望大使」(全国版)。

3. 会員からの取組紹介

地元の仲間とともに！

平 みき(茨城県)

- 地元の仲間とともにNPOを始めて10年になります。月に一度カフェを開いています。また、県の看護協会からの委託事業で、月に一度「となりの縁側」という会もしています。年に1回、講演会を開き、毎年100名近い人たちがきてくださいます。年に5回は、講師の先生をよんでイベントを開いています。その他、電話相談も受けています。講演の依頼や研究のためのインタビュー、ラジオや新聞社のインタビュー、色々な会との共同イベントに参加もしています。
- 今年はヘルプカードやヘルプマークをみなさんに知ってほしく、活動していく予定です。色々な障害があっても住みやすい社会になりますように、がんばっていきたいです。

地元の仲間とつながる！

福田 人志・中倉 美智子(長崎県)

- 平成27年から続けている、みんなが集まれる「峠の茶屋」は生活の一部となっています。昨年より新たに開設した「オレンジの一步」相談室では、認知症当事者や家族の相談を毎日受けつけています。本人さんのやりがいと一緒に考えたり、就労支援にも力を入れています。
- 今年も地域包括支援センターの方や地域の人と一緒にチームオレンジに参加しています。当事者や高齢の方の買い物をサポートする、買い物シートづくりにも一緒に取り組んでいます。「壺行の歌」の制作も続けています。来年、11回目の展示会ができるように、楽しい作品作りを続けていこうと思っています。
- これからも地元でたくさんの仲間と繋がるように活動を続けていきます。

自分の得意を活かす！

遠藤 浩一(東京都)

- 私は、映像機器の設計施工の仕事をした後、撮影スタジオ等で電気主任技術者として設備管理を担ってきました。そして68歳の時に、認知症と診断されました。
- 今は、清瀬市のチームオレンジで活動をしています。活動拠点の「オレンジハウス」では、電気配線のチェックや、トイレの暖房便座への交換なども行っています。「とうきょう認知症希望大使」としても、都内各地で講演等やイベントで活動しています。
- 「共に良い」をモットーに、集まる人々が「ここは自分らしくいられる場所なんだ」「自分にも誰かの為に出来る事があるんだ」と感じられることをめざす地元のデイサービス「TOMON ii」では、皆さんの理解をいただいて、自分の得意なことを活かすことにチャレンジしています。



若年性認知症の人の働く場

マイWayサードプレイス メンバー一同(神奈川県)

- 2013年にスタートしたマイWayの「若年性認知症の人のはたらく場」も10年が経ちました。今は「若年性認知症の人のサードプレイス」として、居心地の良い第3の居場所をメンバーさんと一緒に続けています。
- 働く、遊ぶ、話す、笑う、時にはマジメに?過去を振り返るだけでなく、今日、そして明日が笑顔であるように。
- 昨年からはじめた「自家焙煎珈琲」の取り組みも、少しずつ皆さんに飲んでいただける機会が増えました。いつか皆さんにも飲んでいただきたいです♪これからも宜しく願います!



みんなで続ける!

藤井 康彦(茨城県)

- 2018年から取手市役所、地域包括支援センターとともにJDWG(取手)として「本人ミーティング」を毎月1回開催していましたが、2020年3月からコロナ禍で中断となりました。参加していた本人・家族に働きかけて2020年12月から、JDWG(取手)単独でオンラインによる「とりでオンライン・オレンジカフェ」を立ち上げました。2021年12月に「本人ミーティング」はハイブリッド型にて再開し、その後「本人ミーティング」と「とりでオンライン・オレンジカフェ」を各毎月1回実施しています。
- 「本人ミーティング」では、参加者の近況報告、事務局からの話題提供等の後、本人・家族に分かれて情報交換しています。会場外(東京藝大取手校やランチミーティング)での開催や、有志による農場(Dガーデン)での収穫【写真】等も企画しています。「とりでオンライン・オレンジカフェ」には、本人・家族の他、地域のケアマネジャーや福祉を学ぶ大学生も参加しています。
- 国際アルツハイマー月間の9月には、取手市の市民ギャラリーで認知症に関する作品展が開催されます。「本人ミーティング」を2023年に続き、2024年も出展し、「本人ミーティング」で語られた本人・家族の言葉を本人・家族自身の手で、市民に伝えました。【写真】
- 本人・家族を中心に市役所・地域包括支援センターとの連携のもと、地域のボランティア、ケアマネジャーとともに、地道に活動を継続していきます。引き続きよろしく願いいたします。



4. 活動とともに歩んでくれた方からのメッセージ

● JDWG 発足 10 周年おめでとうございます。

この 10 年間に当事者ととともに社会をつくり出していこうという道が切り開かれました。

しかし、私たちが今立っているのはその道の入り口です。
その入り口から、みんなで力を合わせて前に向かって歩を進めていきましょう。



栗田 圭一さん

／地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 認知症未来社会創造センター センター長
社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター センター長

● JDWG の皆さん、この 10 年間のご努力に深く敬意を表します。

基本法が制定されても、まだまだたくさんやる
ことがあります。

みんなで手を携えて、
いい社会を作ってい
きましょう。



宮島 俊彦さん
／兵庫県立大学客員教授
(元厚労省老健局長)

● JDWG に関わる方々、もちろん
認知症の御本人も、そして御本
人と一緒に歩む方々も、皆それぞ
れが勇気をもって踏み出された一
歩が、10 年の月日の中で、世の中
の空気を大きく変えたと思います。

自分らしく希望を持って生きよう
とする姿勢、これを皆で積み重ねて
いけば、社会は変わるんだと身に
しみて感じました。私も引き続き、
ともに歩ませていただければと思
います。

水谷 忠由さん
／元厚生労働省認知症施策推進室長

● 10 周年おめでとうございます。
認知症を取り巻く社会環境が大きく
変わりました。ご尽力の賜物です。

明るい社会を目指しそして様々な
人の力を得てこれからも認知症の文
化を牽引してください。
ずっと応援しています。

木之下 徹さん
／のぞみメモリークリニック 院長

● 10 周年おめでとうございます。
皆様のご健勝とますますのご活躍、
ご発展をお祈りします。

川村 雄次さん
／NHK長野放送局チーフ・ディレクター

● JDWG の皆さまへ

10 周年おめでとう。皆さんの取り組みがますます重要になり
ますね。基本計画が津々浦々に手渡しされて、認知症を考えるこ
とが、この少子超高齢社会がどうあったらいいのかをすべての人
が引き受けることになります。それぞれの希望宣言がバトンされ
るのです。



町永 俊雄さん／福祉ジャーナリスト

● 認知症本人ワーキンググループの存在は、社会を大きく変えました。藤田和子代表理事はじめ理事のみならず、そして各地の本人会員の発信・活躍で社会の認知症や認知症の人へのとらえ方や理解は、大きく変わり前進しました。

10年前の結成総会に参加しました。多くの認知症の人が全国から参加しすごい熱気でした。貴グループの益々の発展・ご活躍を祈念いたします。おめでとうございます。

鎌田 松代さん
／公益社団法人 認知症の人と家族の会
代表理事

● JDWG 設立 10 周年おめでとうございます！

BLG も 12 年前に立ち上がり、メンバーさんと一緒に JDWG 設立総会に参加させていただいたことが昨日のような感覚です。しかし、その間にも様々なことが凝縮され大きな推進力として認知症分野を牽引してきました。共生社会の実現を推進するための認知症基本法の成立はもちろん、本人一人一人の発信や特別ではない日常生活が可視化され、今や「新しい認知症観」とまで呼ばれるようになりました。

無理することなく、皆さんが今後も緩やかにつながり、特別ではない当たり前の生活が継続されるよう祈念しつつ、私もメンバーさんと活動を楽しみながら継続していきます。引き続き、皆さん宜しく願いいたします。

前田 隆行さん
／100BLG 株式会社 取締役
JDWG 正会員・理事

● 10 周年、誠におめでとうございます。映画「オレンジ・ランプ」は、JDWG 様のご協力なしでは完成していませんでした。おかげさまで、本作の上映会は間もなく 1,000 回を迎えようとしています。映画の広がりを通じて、ご本人たちの想いや活動が希望の光となり、社会に徐々に変化をもたらしていることを強く実感しています。

これからも応援させていただきます。そして、これからの映画作りにおいても、変わらぬご協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

山国 秀幸さん
／映画「オレンジ・ランプ」「ケアニン」
シリーズ 原作・脚本・プロデューサー

● JDWG 10 周年を迎えられたこと、おめでとうございます。

私は和歌山県御坊市で認知症地域支援推進員を長年務めてきました。数年前、JDWG の皆さまとの出会いがあったことで、地域づくりで悩んだときなどいつも助けていただき大きな力をもらいました。

今は防災対策課という部署にいますが、どこの部署にいても認知症の人が安心して暮らせるよう、これからも変わらず JDWG の皆様のご指導を賜りながら、ともに楽しい日々を過ごせたらと思います。

谷口 泰之さん
／御坊市役所（和歌山県）
JDWG 賛助会員

● 昨年『共生社会の実現を推進するための認知症基本法』が成立しました。本人WGの皆さんや関係団体・学会の方々と長きにわたり膝詰めの検討を行ってきた成果が結実し、認知症共生社会に向けた大きな1歩を踏み出すことができました。

これからも皆さんと共に力を合わせ、それぞれの立場から、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けることのできる社会を実現していけたらと思います。これからも共に歩んで参りましょう。



鈴木 隼人さん／自民党 衆議院議員

● 未来に向けての希望を語り合うイベントが開催されますこと、心からお喜び申し上げます。私たちは「認知症とともに生きる希望宣言」に勇気をいただき、取り組みを加速してまいりました。

基本法をもとに、ご本人の意見を踏まえながら、認知症と共に希望を持って生きるという「新しい認知症観」を打ち出し、社会に広めることを重点目標に掲げた「認知症施策推進基本計画」がまもなく策定されます。

新しい認知症観を社会に浸透させ、当事者への理解が深まるよう、計画案で示された学校教育の推進のほか、地域や職場での啓発活動の後押しなど、党のネットワークの力を生かし、当事者や家族が安心できる施策の実現につなげてまいります。



古屋 範子さん／公明党 副代表

● 日本認知症本人ワーキンググループの皆様、10周年誠にありがとうございます。

認知症を取り巻く流れは大きな変化が起きておりその中心にいるのは皆様です。共に歩めることが幸せです。一緒に共生社会を実現しましょう。

小柳 勇太さん
／経済産業省 ヘルスケア産業課
課長補佐

● 10周年おめでとうございます。皆様とご一緒させていただいてから、たくさんの素敵な経験をさせていただきました。

認知症とともに生きる方々の笑顔をあらゆる場面で見ることができ、そのような世の中をみんなで作っていきたいと思います。

室 紗貴さん
／経済産業省 ヘルスケア産業課
課長補佐

● JDWG 設立 10 周年おめでとうございます。JDWG の皆様とは、本年 7 月の認知症施策推進関係者会議で初めてお目にかかり、基本計画案のとりまとめに向けた 2 ヶ月弱の間に、藤田さん、戸上さん、春原さん達と何度も議論させていただくなかで、私の「認知症観」はどんどん刷新されていきました。

基本法・基本計画が出来て、これからが本当のスタートです。皆様と共により良い社会を創っていきたいと思います。

遠坂 佳将さん／厚生労働省 老健局認知症施策・地域介護推進課地域づくり推進室長

5. JDWG 10年の歩み(年表)

年	取組み	社会全体
設立前	<p>2004年 ADI 京都での越智俊二さんの登壇以降、各地で自発的な本人発信が始まる</p> <p>2010年12月 本人から本人への呼びかけ（厚労省で記者発表）</p>	<p>2012年 オレンジプラン (認知症施策推進5か年計画)</p>
2014	<p>10月11日 「日本認知症ワーキンググループ」 (Japan Dementia Working Group : JDWG) 設立</p> <p>10月23日 共同代表が厚生労働大臣と面会・提案書手渡す（記者会見）</p> <p>12月 厚生労働省ヒアリング：新オレンジプランにおけた意見交換</p>	
2015	<p>3月：全体ミーティング「今後の活動について」</p> <p>9月：ジェームズ・マキロップ（スコットランド）勉強会</p> <p>11月：マキロップ夫妻と話す会、第1回総会</p> <p>11月：第9回「新しい医療のかたち賞」受賞</p>	<p>1月 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)</p>
2016	<p>2月：「JDWG 提案 2016」</p> <p>3月：JDWG ミーティング in 鳥取</p> <p>6月：SDWG（スコットランド認知症ワーキンググループ）と交流</p> <p>9月：国際アルツハイマー病協会（ADI） 国際会議プレイベント in 京都</p>	
2017	<p>3月：「本人ミーティング開催ガイドブック」作成 (老健事業にて JDWG が制作協力)</p> <p>3月：「運転免許に関する JDWG 提案」 (警察庁、厚労省へ提出、記者発表)</p> <p>4月：クリスティーン・ブライデンさんと話す会 ADI 京都にて、本人座談会を企画・実施</p> <p>7月：杉浦記念財団 第6回杉浦地域医療振興賞を受賞</p> <p>9月29日：一般社団法人化 名称を「日本認知症本人ワーキンググループ」へ</p> <p>9月～：本人が書いた本ブックフェアを展開</p>	

年	取組み	社会全体
2018	<p>3月：「本人にとってのよりよい暮らしガイド（本人ガイド）」作成（老健事業にてJDWGが制作協力。その後、普及活動実施）</p> <p>6月：JDWG公開イベント（東京・赤坂）</p> <p>10月：「認知症の本人が語り合う全国の集い in 静岡」（主催：静岡県）に協力</p> <p>11月：「認知症とともに生きる希望宣言」発表（記者会見） 「希望のリレー」アクションを始める</p>	
2019	<p>1月：「基本法案にむけた提案」発表</p> <p>6月：JDWG公開イベント（東京・浜松町）</p> <p>8月：「認知症施策推進大綱の今後の展開への期待と展望」発表</p> <p>10月：「認知症基本法案に関する期待と要望」発表</p> <p>11月：大阪空堀商店街「デメンシア・タイムズストリート」開催</p>	<p>4月 日本認知症官民協議会発足</p> <p>6月 認知症施策推進大綱</p>
2020	<p>2月：北九州市「希望のリレーをあなたのまちでも」開催</p> <p>2月：「認知症基本法について考える院内集会」</p> <p>12月：東京多摩地域「パワフルに活動している認知症の本人たちからのメッセージを聴いてみよう！」開催 ・映画「ケアニン」との連携始まる ・「希望の道」動画への協力 (厚労省認知症普及啓発事業の一環)</p>	<p>1月 認知症本人大使 「希望大使」の任命</p>
2021	<p>3月：「希望のリレー楽団」動画公開 「わたしたち、それぞれのストーリー」動画公開</p> <p>6月：「共生社会の実現に向けた認知症施策推進議員連盟」設立総会にて、「認知症共生社会を実現する基本法への期待と要望」手渡す（議連会合へ4回出席、他zoom等を用いた意見交換を重ねる）</p> <p>8月：本人による「zoomを使って集まろう」を開催（月1回定期開催へ）</p> <p>9月：「地域版認知症本人大使（希望大使）交流会 2021」オンライン開催（JDWG自主企画） ・「希望の道」動画への協力 (厚労省認知症普及啓発事業の一環)</p>	
2022	<p>10月：「地域版認知症希望大使交流会 2022」オンライン開催（老健事業の一環） ・地域版希望大使の活動推進を後押し</p>	<p>認知症施策推進大綱 ・進捗確認</p>

年	取組み	社会全体
2023	<p>2月：「認知症共生社会を実現」する基本法の立案を 「～ともによりよく生きる未来志向の基本法への期待と 要望」発表</p> <p>5月：G7長崎保健大臣会合開催記念 認知症シンポジウム 「新時代の認知症施策推進に向けた国際社会の連携」</p> <p>9月：認知症に向き合う「幸齢社会」実現会議 藤田代表が構成員として参画（～12月）</p> <p>10月：「希望のリレーフォーラム」 主催：認知症介護研究・研修東京センター 共催：JDWG</p> <p>11月：「全国希望大使交流会議2023」リアル開催 （老健事業の一環） ・映画「オレンジ・ランプ」との連携始まる</p>	<p>6月 「共生社会の実現を 推進するための認知 症基本法」成立</p>
2024	<p>1月：能登を応援！小さな声プロジェクト（～3月）</p> <p>3月～：「認知症施策推進関係者会議」 委員として本人3名が参画</p>	<p>1月 「共生社会の実現を 推進するための認知 症基本法」施行</p> <p>認知症本人大使 「希望大使」の任命 （再任・新任）</p>



「希望のリレー」のバトンをつないでいこう！



2024年10月
一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ